

うっしっしいー情報2015

7月市



豊岡農業改良普及センター

7月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が86万2千円、雌が73万4千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	22	0.960	829,784	11	0.890	715,353	33	791,640
篠山	8	0.994	895,320	5	0.839	736,776	13	834,342
丹波	18	1.009	875,400	25	0.876	743,472	43	798,698
朝来	6	0.959	841,500	5	0.856	692,712	11	773,869
播磨	13	0.942	836,668	12	0.833	690,570	25	766,541
美方郡	40	1.007	883,791	43	0.868	755,297	83	817,222
豊岡	13	0.984	872,142	14	0.855	751,294	27	809,480
養父	10	1.029	845,316	9	0.850	713,760	19	783,000
摂津・神戸	2	0.994	883,440	3	0.755	642,600	5	738,936
県北C	6	0.910	832,500	2	0.779	703,080	8	800,145
市場全体	138	0.986	862,357	129	0.860	733,672	267	800,183

7月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	照忠土井	11	0.980	874,800	8	0.889	802,440	19	844,333
2	芳悠土井	27	1.008	883,960	24	0.879	756,495	51	823,976
3	丸宮土井	14	0.970	901,646	15	0.845	743,112	29	819,646
4	千代藤土井	12	1.027	863,010	8	0.852	748,710	20	817,290
	総計	138	0.986	862,357	129	0.860	733,672	267	800,183
5	芳山土井	30	1.007	866,196	41	0.861	724,048	71	784,110
6	丸富土井	19	0.951	831,316	17	0.840	703,842	36	771,120
7	菊西土井	5	0.978	830,088	8	0.850	704,835	13	753,009

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	照忠土井	B	A++ → A+++	A → A+	A+	A+++	A+
2	芳悠土井	A+	A → B	A+ → A	A	A	A+++ → A++
3	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+ → A++	A++
4	千代藤土井	A	A++ → A+++	D → C	A → A++	A+ → A++	A+++ → A++
5	芳山土井	A+	A+++ → A++	A++	C	A++	A++
6	丸富土井	B	A++	D	C	A	A++
7	菊西土井	A+	A+	C	B	A	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成27年1月現在)

飼料給与の目安は、もっていますか？

～基本編～

皆さん、牛の飼料給与量は、どのように決めていますか？昔ながらの量？篤農家と同じ？マニュアルどおり？……。今月号は、飼料給与量を決めるための基本について説明します。

1 必要な量の目安は？

水稻を栽培する時に肥料を施肥しますが、どれくらいの量の肥料が必要なのか目安が無いと決められません。例えばコシヒカリを栽培する場合、約6kg/10aのチッソ成分が必要だと試験研究の結果があります。この目安を基に経営者が実際の施肥量を決定します。

同様に牛では、「日本飼養標準・肉用牛（2008年版）」という本に「母牛の維持に必要な養分量（目安）」が記載されています（図1）。例えば、体重350kgの母牛の1日あたり必要な乾物量は5kg、粗蛋白質量は402g、可消化養分総量は2.5kgです。これを基に、配合飼料袋の裏に記載されている正味重量成分量（図2）と粗飼料の成分量から計算した給与量で決めています。但し、図1の数値は、但馬牛と他府県の牛と比較した場合の飼料効率の違いなどが考慮されていないので、あくまで「目安」・「ものさし」なのです。

体重 (kg)	乾物量 DM(kg)	粗蛋白質 CP(g)	可消化養分総量 TDN(kg)
350	5.00	402	2.50
400	5.53	441	2.76
450	6.04	479	3.02

図1 母牛の維持に必要な養分量（目安）

2 飼料計算をする前に・・・最重要「乾物量(=DM)」

図1の「母牛の維持に必要な養分量（目安）」には記載があるのに、図2の「配合飼料袋の裏に記載されている正味重量成分量」に記載されていない項目があるのに気が付かれませんか？
答えは、乾物量(=DM)です。

乾物量とは、飼料中の水分を差し引いた重量をさし、牛の満腹度合いの指標となります。例えば春になり、乾草（例えば水分10%）から半乾燥の青草（例えば水分50%）に変更する場合は、同じ量を与えても牛がお腹を空かせます。現物量が同じ6kgでも、半乾草の青草であれば乾草より、乾物量で1.6kg少ないからです（3.0kg-5.4kg）（図3）。そのため、半乾草の青草で乾草と同じ乾物量を給与するには、10.8kg（5.4kg÷3.0kg×6kg）が必要となります。

粗蛋白質	16.00	%以上
粗脂肪	1.50	%以上
粗繊維	11.00	%以下
粗灰分	10.00	%以下
カルシウム	0.50	%以上
リン	0.35	%以上
可消化養分量	70.50	%以上

図2 配合飼料袋の裏に記載されている正味重量成分量

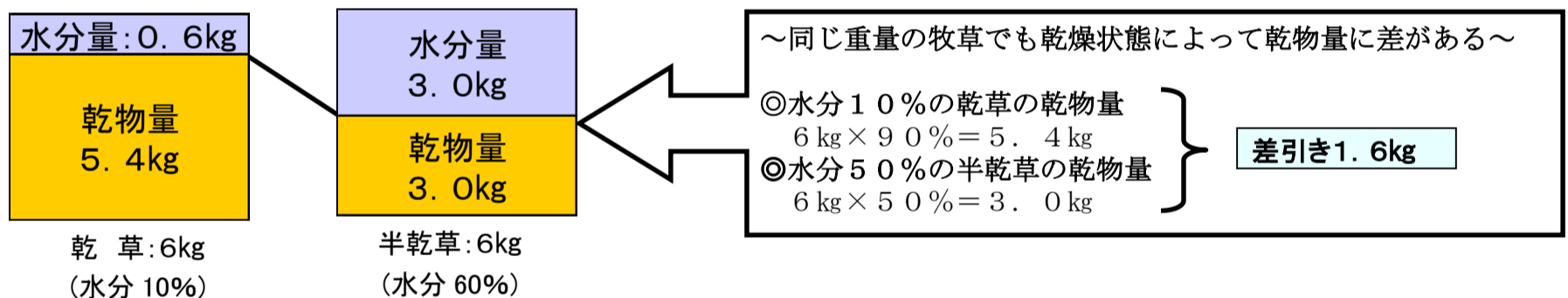


図3 水分10%の乾草6kgと水分50%の半乾草6kgの乾物量の違い

3 飼料計算をする前に

図1の母牛の維持に必要な養分量（目安）に記載されている、乾物量(=DM)、粗蛋白質(=CP)、可消化養分総量(=TDN)について説明します。

(1) 乾物量(=DM)

この内容については、上記の2で説明しましたので割愛します。

(2) 粗蛋白質(=CP)

蛋白質は、体の組織である筋肉や血液、皮膚、爪、毛、ホルモン・免疫物質の原料など生き物に欠かすことのできない成分になります。ここでは、蛋白質の前に「粗(あらい)」という文字が付いていますが、蛋白質以外の物質も含まれている、ぐらいにとらえて頂いたら結構です。

繁殖和牛では、粗蛋白質を過剰摂取しても不足しても受胎率の低下など繁殖性の悪影響を及ぼすと言われています。皆さんが一般的に使っている飼料の中で、蛋白質成分が高い飼料は、大豆粕、ヘイキューブ等が挙げられます。

(3) 可消化養分総量(=TDN)

飼料中の各栄養素から計算した総エネルギー量のことです。分かりやすく言えば、人間で言うところの必要カロリー量みたいなものです。従ってTDNは、牛の体重やボディコンディションスコアを調整する上で重要な項目となっています。TDNが高い飼料は、圧ペントウモロコシや麦などです。

乳牛の場合、エネルギーが使われる優先順位は右のようなデータがあります。和牛も同じ牛なので同様と考えられますので参考にして下さい。

①生体維持
②妊娠維持※
③泌乳
④繁殖
⑤成長
⑥ボディコンディションスコアの回復

※②は、受胎(妊娠)時のみです。

飼料設計に向けた基本的な説明は以上です。次回は、具体的な給与量の計算方法を説明します。